



新 栄 だ よ り vol.10



時代の変革期を経て



▲ 1910年代の西町付近
市内電車の建設工事は佐藤組（現・佐藤工業）が昼夜兼行で行い、わずか3ヶ月で完了しました。
この頃すでに白熱電球は使用されています。

▲ 1945年富山大空襲後の西町方面。右は焼け残った大和
1946年7月1日には中教院前の夜店さえ復活し、
早い復興と災害に強い県民性（越中魂）を窺わせました。

▲ 戦後富山市民の生活を支えた富山駅前のヤミ市
ヤミ市の数は350店舗にのぼりました



▲ 1963年の三八豪雪、岩瀬新町での除雪風景
数年後、蛍光灯が普及します



▲ 2002年の総曲輪アーケード
この頃LED照明が始めます



▲ 再開発が進む富山市中心部
2012年照明メーカーのLED照明出荷率が40%になりました

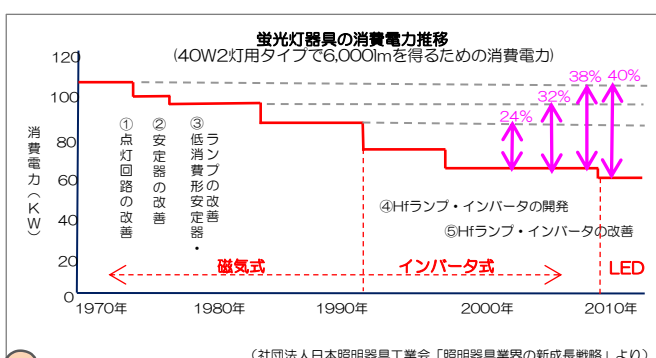
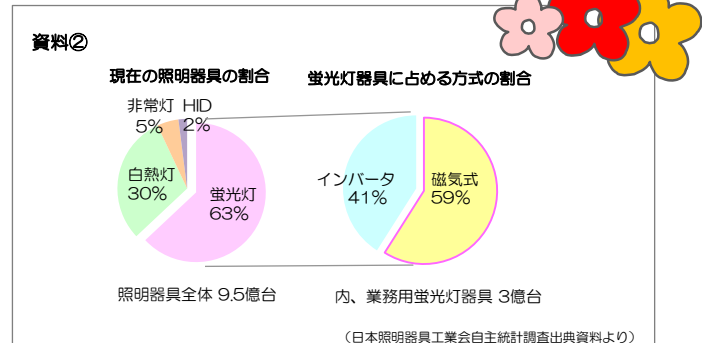
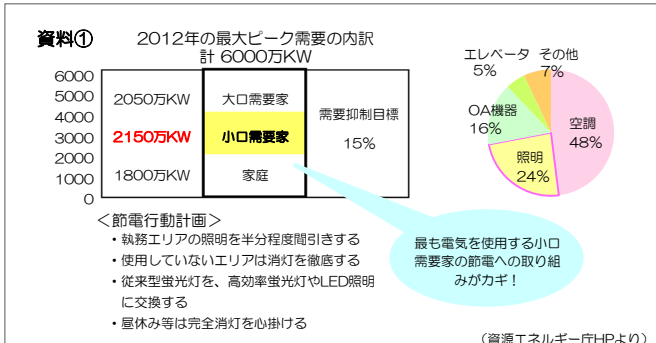
（資料：富山県立図書館 蔵書より）

1890年、白熱舎（現在の東芝）が日本で初めて白熱電球の試作に成功して120年後、東芝は白熱電球の制作に幕を閉じました。その頃からの富山市内の時代の変化を調べてみました（上記写真）。時代の変革期の中、十分な設備もない中で、人々は必死に生きてきたのだと改めて感じます。今日私達が安心して生活できるのも、その時代を生き抜いた方達のおかげだと本当に感謝致します。

1997年の気候変動による京都議定書の採択、近年のリーマンショックによる景気の後退、そして2011年3月の東日本大震災による環境の変化。昨今、CO2の削減・省エネ・エコ運転など様々な取り組みがなされていますが、私達に今できる事・しなくてはならない事は何なのでしょう？

蛍光灯に注目してみました

2012年、オフィスビルにおける節電行動計画フォーマットが作られましたが（資料①）、実際には中小オフィス3,000㎡以下の8割はこの取り組みに現状手つかず状態です。使用されている蛍光灯のうち、磁気式は蛍光灯全体の59%を占めています（資料②）



照明器具の適正交換

電球は時代と共に進化し、人々の暮らしを支えて来ました。最近の明かりは演出効果も見直され、空間照明によって安心感・心地よさも重要視されています。便利になるほどエネルギー開発も進められ、それに伴って生活水準も上がり、エネルギー消費量の増加をもたらしていることが懸念される中、オフィスや家庭における地球温暖化対策の重要性が高まっています。

メンテナンスは大切です。機器が壊れば部品を交換して再度使用することはもちろん大事ですが、消費電力・機器の金額・交換費用などを考慮すると、適正交換時期の見極めはさらに大事なことだと考えます。

（工事部・吉井・上沢）



1月～5月 是正処置・不適合について

— 5件発生しました —

是正処置・不適合の内容

その原因

除去方法 くどうすれば防げるか？

① 予定とは違う納まりになっていたため、コンセントを納めることができない

② 駐車場ラインの変更により、外灯ポールの移動が必要になった

③ 打ち合わせをしていたが、完成間近にスイッチの移動が必要になった

④ 弱電用引込埋設配管がつぶれて、入線が不可能になってしまった

・打ち合わせ不足
・確認不足
・お客様情報不足

埋戻しの土は、配管敷設層だけでも砂を使用するべきなのに、掘削土をそのまま使用した。石・ガラなどが多く混じっていたことが原因と考えられる。

・一つ一つの仕事を丁寧に言い、ダブルチェックを徹底する
・提案する

「～だろう」と安易に考えず、予防処置に努める（「～かもしれない」と考え、最善策をうつ）

今回の是正処置や不適合の発生は、真のコミュニケーションの不足が要因

今後、このような不適合を起こさないように、相手が何を望んでいるのか考え、お客様の立場・状況などを総合的に判断して意見を出し、情報を伝達し合い、心を通じ合わせながらお客様満足度を上げるように努めます。

（工事部・柿谷）

施工反省会をおこなっています

完了物件を対象に、毎月1～2回、工事部と営業企画部で施工反省会をおこなっています。



焼肉きんぐ豊田店（担当：藤川）

消防検査における確認事項

- ★ テーブル上の照明器具は、ロースターテーブル面から1mの離隔をとること。
- ★ フェンス内にある高压のキュービクルについて、周囲との離隔を全て寸法を入れるようにすること。

雄峰高校東・北校舎新築工事（担当：中川）

工事において大変だった事や今後気をつけるべき点の提案

- ★ 学校=特定施設におけるキュービクルを固定するアンカーの強度基準についての対応方法。
- ★ キュービクル搬入時に、ドアの開閉ギリギリの状態で納めた。対処方法の説明と、予防処置の提案。

施工反省会を通じて、各物件の反省点や成功例を全員のものとして共に理解し、新人共々成長することが目的です。

（工事部・柿谷、上沢）

★ 営業企画部として

営業企画部では、色々な用途の物件を設計させて頂いております。どのような設計でも、お客様の要求をしっかりと確認し、使いやすい設備を提案することが重要です。

そのために、物件完了ごとにおこなっている施工反省会で、施工した物件の良かった点・反省点を確認し、新しい技術もいち早く提案できるよう理解に努めています。

過去の設計・施工のデータと新しい技術を新規物件に取り込み、お客様に喜んでいただけるよう努力していく所存です。

（営業企画部・伊藤）

お客様紹介

“森の中のオフィス”

株式会社 サンテン・コーポレーション様 富山事業本部新築工事



▲自然と一体となることで、静かで開放的な雰囲気を漂わせています



▲外観



▲日中とはまた別の雰囲気です
メンテナンス性・防虫性能を満たすためLED照明にしています

株式会社サンテン・コーポレーション様は、富山事業本部の新築にあたり2008年1月に同社の4支店から6つの提案を受け、その基本プランがコンセプトになり、この度意匠および機能性に優れた富山事業本部を新築されました。

当社は施主様、設計の株式会社おのみ設計様、建築元受の佐藤工業株式会社様のご指導のもと、電気設備工事を施工させていただきました。

照明は意匠に重点を置いており、光源の特性を生かした新たなタスクアンビエント方式の間接照明や、存在感のある外部のカーテンウォールの照明には強いこだわりを持っておられました。また、メンテナンスの困難な箇所にはLED照明を使用し、長寿命という特性を生かした照明配置となっております。

そして、株式会社サンテン・コーポレーション会長様のコンセプトの1つである「森の中のオフィス」として、ホールの照明の配置等もご指導いただきました。

本事務所が株式会社サンテン・コーポレーション様の旗艦として、益々ご発展されますよう、祈念申し上げます。

(営業部・小林)

(工事部・高橋)

★IH簡単レシピ★

しょうがを使った簡単ヘルシーレシピです♪

人の理想的な平均体温は36.8度前後。しかし現代人の平均体温は36.2度で、35度台の人も珍しくありません。1度の体温低下で代謝は12%、免疫力は30%以上低下すると言われています。

これからの季節、夏のエアコンによる冷え対策として、血行が良くなる食材、しょうがのレシピをご紹介します。



▲材料ははちみつとしょうがのみ



▲はちみつとしょうがを煮詰めます
IHなので火力調整も簡単

- ① しょうがはきれいに洗い、すり下ろす。
(生のしょうがは冷凍してあるとすり下ろしやすいです。または、チューブでもOKです)
- ② すり下ろしたしょうがを鍋に入れ、はちみつを加え、お好みのやわらかさまで煮詰める。
- ③ 消毒した瓶に冷めたハニーシンジャーを入れて出来上がり。冷蔵庫で保存します(冷蔵庫で1ヶ月もちます)。

しょうがパワーで夏を乗り切りましょう！



ジャムとしてパンに塗ったり、ヨーグルトや紅茶に混ぜたり、醤油を加えてしょうが焼きやから揚げの下味にも使えて便利です。



炭酸水を加えて、ライムやレモンを浮かべるとシンジャーエールになります。
甘過ぎず、さっぱりと飲めます。

(総務部・清水)

</